

を踏まえた編集であることの強調である。西村正三郎・池永厚共編による『高等小学読本』（1887年、普及舎）も同様の方針を明らかにしている。

この二つは歴史的教材については、ともに古代から近代までの教材を掲載しているという点で共通している。歴史科の内容を網羅しているのである。しかし地理的教材については、文部省の教科書が日本・外国の主要都市に関する詳細な教材を数多く掲載しているのに対し、西村・池永の教科書では北海道、小笠原島、琉球、そして東京というように、当時の日本の中心地と周縁地域についての教材を掲載しているにすぎない。理科的教材については、理科に関わる教育内容と比べるならば当時の理科は「人生二最モ緊切ノ関係アルモノ」としての動植物等に関する博物的な知識、また「日常児童ノ目撃シ得ル所ノモノ」としての自然現象や日用器具の作用などについて取り上げる教科として規定されていた。文部省編集のものは、理科の内容として例示された素材をほぼそのまま網羅して解説している（前頁写真参照）。それに対し西村・池永の編集による教科書は博物的な知識にくわえて物理学、化学一般の知識を授けることを目的として編集されており、教科としての理科の内容よりもさらに高度なものになっている。

一方、のちに東京高等師範学校校長、さらには東京文理科大学学長をつとめた三宅米吉の編集に

よる『高等日本読本』（1888年、金港堂、新保磐次との共編）では「本書第五巻以上八専文学二傾キテ理科経済等ノ事実ヲ知ラシムルコトヲセズ」というように、かならずしも文部省の規定にはしたがわず、「文学」を教えるための教科書編集であることを宣言している。そのために理科的教材や地理的教材はきわめて少なく、歴史的教材についても、文学史上の物語に取材したものを掲載することによって編集方針を貫徹しようとしているように思われる。

これらはそれぞれ地理、歴史、理科等の教科の内容を検討したうえでの読書科という教科に対する編集者たちの教科観の表明であるといえるだろう。そしてその内容は当該教科の進展、教育課程の変化にともなって変化せざるをえないものであった。したがって私たちが本学の明治期教科書コレクションで手にとることができるこの前後以降の検定教科書群による多種多様な読書科、国語科の教材構成のあり方は、その時々におけるこの教科の固有の存在意義の考え方についてのそれぞれの提案であったとみることができる。そしてそれら数々の提案は一世紀余を隔てた私たちにも、これらからの教育課程と国語科の考え方についてさまざまな刺激を与えてくれるのである。

（かい・ゆういちろう 教育学系助教授）

本学教官寄贈著書紹介

平成12年12月～平成13年4月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。

（敬称略、寄贈者五十音順、〔 〕内は配架場所と配架番号です。）

秋山学（文芸・言語学系）

- ・教父と古典解釈：予型論の射程 創文社、2001
〔中央 132.1-A38〕

池田裕（歴史・人類学系）

- ・死海文書Q&A. ミルトス、2000〔中央 193.02-I32〕

伊藤益（哲学・思想学系）

- ・旅の思想：日本思想における「存在」の問題。

北樹出版、2001〔中央 121-I89〕

岡部克己（心身障害学系）

- ・Educational rehabilitation and nursing for aphasics in Japan : an interdisciplinary Model / Toshiko Okabe. University of Tsukuba and Tokyo Metropolitan University of Health Sciences, 2000〔中央、体芸、医学 496.9-O37〕

角井博（芸術学系）

- ・墨跡の鑑賞基礎知識 / 寺山旦中共著. 至文堂、2000〔体芸 728-Te67〕

河野惟隆（社会科学系）

- ・法人税法別表四の新解釈. 税務経理協会, 2001
〔中央 345.3-Ko76〕

佐伯聰夫（体育科学系）

- ・スポーツイベントの展開と地域社会形成：ウ
ィンブルドン・テニスからブンデスリーガ・
サッカーまで. 不昧堂出版, 2000〔体芸
780.13-Sa14〕

塩尻和子（哲学・思想学系）

- ・イスラームの倫理：アブドゥル・ジャッバー
ル研究. 未来社, 2001〔中央 167.1-Sh72〕
- ・聖戦の歴史：十字軍遠征から湾岸戦争まで /
カレン・アームストロング著, 池田美佐子共
訳. 柏書房, 2001〔中央 209-Sh72〕

志賀和人（農林学系）

- ・21世紀の地域森林管理. 全国林業改良普及協会,
2001〔林業改良普及叢書：137〕〔中央 651-Sh27〕

副田義也（社会科学系）

- ・死の社会学. 岩波書店, 2001〔中央 361.04-
So21〕

高木英明（社会工学系）

- ・Performance and Qos of next generation net-
working / Kunio Goto ... [et. al.] Springer,
2001〔中央 007.6-G72〕

田島裕（社会科学系）

- ・イギリス憲法典：1998年人権法. 信山社, 2001
〔中央, 大塚 323.33-Ta26〕

谷川彰英（教育学系）

- ・マンガ：教師に見えなかった世界. 白水社,
2000〔中央 726.1-Ta88〕

長尾英幸（農林学系）

- ・改訂・日本の絶滅のおそれのある野性生物：
レッドデータブック / 環境庁自然保護局野
生生物課 9. 自然環境研究センター, 2000
〔中央 462.1-Ka56〕

中川八洋（歴史・人類学系）

- ・大東亜戦争と「開戦責任」：近衛文麿と山本
五十六. 弓立社, 2000〔中央 210.75-N32〕

中村伸夫（芸術学系）

- ・中国近代の書人たち. 二玄社, 2000〔体芸

728.22-N37〕

野口鐵郎（名誉教授）

- ・訳注明史刑法志. 風響社, 2001〔中央 322.22-
N93〕

黄順姫（社会科学系）

- ・国際会議20世紀におけるナショナリズム, ス
ポーツ, 身体文化. 筑波大学社会科学系, 2001
〔中央本学, 中央, 体芸, 医学 311.3-Ko11〕

三澤章吾（社会医学系）

- ・変死体・殺人捜査：法医学事件ファイル. 日
本文芸社, 2001〔医学 498.94-Mi51〕

水野建雄（哲学・思想学系）

- ・ディルタイと現代：歴史的理性批判の射程 /
西村皓, 牧野英二, 舟山俊明編. 法政大学出版
局, 2001〔中央 134.9-D74〕
- ・ディルタイの歴史認識とヘーゲル. 南窓社,
1998〔中央, 体芸 201.1-D74〕

メイサー, ダリル（生物科学系）

- ・アジアと生命倫理 / 藤木典生共編. ユウバイ
オス倫理研究会, 1999〔中央 490.15-F59〕
- ・日本における高校での生命倫理教育. ユウバ
イオス倫理研究会, 2000〔中央 375.314-Ma14〕
- ・ヒト・ゲノム研究と社会：第2回国際生命倫
理福井セミナー / 藤木典生共編. ユウバイオ
ス倫理研究会, 1992〔中央 490.15-F59〕
- ・ヒト・ゲノムの保全と科学の責務：1995年科
学の責務協会日本支部・ユネスコ国際生命倫
理委員会ジョイント・セミナー / 岡本道雄,
藤木典生共編. ユウバイオス倫理研究会, 1996
〔ミューズ・ジャパン：創刊号〕〔中央 490.5-O42〕
- ・Bioethics in Asia : the proceedings of the
UNESCO Asian Bioethics Conference
(ABC'97) and the WHO-assisted satellite
symposium on medical genetics services, 3-8
Nov, 1997 in Kobe / Fukui, Japan : 3rd MURS
Japan international symposium, 2nd congress
of the Asian Association of Bioethics, 6th
international bioethics seminar in Fukui /
editors, Norio Fujiki. Eubios Ethics Institute,
1998〔中央 490.15-Ma14〕

- Bioethics in high schools in Australia, Japan & New Zealand. Eubios Ethics Institute, 1996 【中央 375.314-Ma14】
- Bioethics in India : proceedings of the International Bioethics Workshop in Madras : bioethical management of biogeoresources, 16-19 Jan. 1997, University of Madras / editors, Jayapaul Azariah, Hilda Azariah. Eubios Ethics Institute, 1998 【中央 490.15-A99】
- Bioethics is love of life : an alternative textbook. Eubios Ethics Institute, 1998 【中央 490.15-Ma14】
- Ethical challenges as we approach the end of the human genome project. Eubios Ethics

Institute, 2000 【中央 490.15-Ma14】

八木春生（芸術学系）

- 中国南北朝時代における小文化センターの研究：漢中・安康地区調査報告. 筑波大学芸術学系八木研究室, 1998【中央本学, 中央 702.22-Y15】

湯沢質幸（文芸・言語学系）

- 古代日本人と外国語：源氏・道真・円仁・通訳・渤海・大学寮. 勉誠出版, 2001（遊学叢書：14）【中央810.23-Y99】

吉田武男（教育学系）

- 道徳教育とその指導法. NSK出版, 2001（NSK教育ボックス）【中央 371.6-Y86】
- 発想の転換を促すシュタイナーの教育名言100選. 学事出版, 2001【中央 371.5-St3】



私の一冊

伊藤 益

「旅の思想」

日本思想における「存在」の問題

伊藤益著（北樹出版）

【中央121-I89】



この道や 行く人なしに 秋の暮 （芭蕉）

茫漠と広がる原野に一筋の道が通っている。旅人の視界には、後を追う者の姿もなければ、前方を歩む者の後姿もない。旅人は、どこへつながるともしれぬ果てのない細道を、ただひとり悄然と

歩きつづける。物理的には限局されながらも、精神の行き着く地点を特定できない私たちの人生は、こうした旅に似ている。

旅に在る者は、いつも、自身の内部で何かがゆらいでいることを自覚せざるをえない。旅は、薄い膜のように原郷を蔽っていたやすらぎの感覚を、何処ともなく霧散させてしまうからだ。では、何がゆらぐのか。旅人の心底に不安をもたらすものの正体は。本書はこの問いへの応答を試みる。

問いは、すでに、多くの先達によって立てられている。例えば、西行、一遍、芭蕉。彼らは、その漂泊の「生」を通して、何らかの応答をさえ果たしたはずだ。そうした問いかけと応答の跡を追いつつ、「旅に在ること」の意義を、「旅」と「在ること」（存在）とに即して闡明することを、本書はみずからの目的としている。

得られた結論は、およそ次のようなものだ。

旅は、「在ること」の根底を激しく動揺させる。しかし、その動揺を抑止するためには、さらに旅を続けざるをえない。続行される、ゆらぎの旅の